ともに寄り添い　ともに築き　ともに輝く　地域づくり

MONTHLY　Fukku

マンスリー　フック

Vol.90

2026.10月号

発行
社会福祉法人
佐賀県社会福祉協議会
佐賀市天神一丁目4番15号
TEL0952-23-2145

■制度のはざ間を埋め、生きづらさに寄り添う支援へ
～「コミュニティソーシャルワーク力向上研修」を開催しました～



【講師からの鋭い問いかけに対して終始考え続けた2日間】

複雑化・複合化した生活課題や孤立を抱える世帯を支えるためには、本人の「声なき声」を丁寧に受け止め、関係機関や地域住民とともに支え合いの仕組みをつくるコミュニティソーシャルワークの視点が不可欠です。▶そこで本会では、9月10日・11日の2日間、「コミュニティソーシャルワーク力向上研修（第2回）」を開催し、市町行政、市町社協、地域包括支援センターなどから20名に参加いただきました（当研修は2回シリーズでの研修であり、第1回は7月に2日間開催）▶講師には、日本社会事業大学名誉教授の大橋謙策氏を迎え、自らの課題を自覚していなかったり、支援を拒否するなど、関係性を作るのが難しい「ヴァルネラビリティ（傷つきやすさ・脆弱性）」を抱える対象者への理解と、アウトリーチ（訪問支援）の視点を学びました。受講者が担当した実際の事例検討を通じ、生活課題等を深く把握するためのアセスメントのポイントや、信頼関係を築くための多角的なアプローチへの理解を深めました。▶さらに研修後半では、課題解決型プログラムの創出や日常生活圏域でのソーシャルサポートネットワークの構築について、制度のはざ間を埋める全国の先進事例（高知県や香川県など）から、地域内での協働による地域づくりの視点を共有しました。▶本会では今後も、各地域において、課題を抱える一人ひとりに寄り添いながら、地域全体で支える仕組みを創り出すことができるよう社協職員等のコミュニティソーシャルワーク力の向上に取り組んでいきます。

■ICFの視点から学ぶ実践研修　～福祉機器で広がる「できること」～



【多種多様な福祉機器を活用して実技に取り組む受講者】

本会では9月15日に、一般社団法人こうしゅくゼロ推進協議会 代表理事の松尾 清美 氏を講師にお迎えし、「ICFに基づく福祉機器の活用研修」を開催しました。▶本研修は、福祉機器を活用することで、職員の介助動作による身体的負担を軽減し、ケアの質の向上を図るとともに、利用者の生活機能の向上や自立支援を図ることを目的に実施しました。
▶ICF（国際生活機能分類）とは、利用者の「できないこと」だけでなく、「できること」や生活環境にも目を向け、その人らしい生活を支えるために大切な視点です。研修前半はその視点を踏まえ、具体的な事例を通し、一人ひとりに応じた支援の大切さについて理解を深めました。▶研修後半では実技研修を行い、スライディングシートやスライディングボード、リフト、移乗サポートロボットなど、さまざまな福祉機器を実際に使用した介助方法について、参加者自身が体験し、福祉機器の特徴や活用方法、身体への負担軽減の効果について理解を深めました。▶今回の研修では、福祉機器を「介護を補助する道具」としてだけではなく、利用者の「できること」を広げ、「その人らしい生活を豊かにするための道具」として、活用する大切さを考える貴重な機会となりました。今後も、本会では福祉現場に役立つ学びの機会を提供し、福祉サービスの向上につながる研修を実施してまいります。

◆県社協ホームページアドレス
https://www.sagaken-shakyo.or.jp/
◆県社協公式 Instagram
https://www.instagram.com/sagakenshakyo/
◆貸会議室予約システム
https://sagaken-shakyo.resv.jp

SAGAKENSHAKYO

■佐賀県保育士就業継続支援セミナーを開催しました
～安心して働き続けられる保育現場を目指して～

佐賀県保育士・保育所支援センターでは、保育士の皆さんが今の職場で長く安心して働き続けられるよう、新たな取組として、「保育士就業継続支援セミナー」を企画しました。▶9月16日に西九州大学短期大学部幼児保育学科の牛丸和人教授を講師に迎え、「望ましい保育を行うためのメンタルヘルスとチームづくり」をテーマに開催しました。▶研修では、アンガーマネジメントや職員間のコミュニケーション、互いに支え合える職場づくりなどについて、グループワークを交えながら学びました。参加者は日頃の保育や自身の関わり方を振り返り、安心して働き続けられる職場づくりについて考えを深めました。▶当センターでは、求職者と保育所等との橋渡しに加え、現在保育の仕事に携わる方々への支援も大切な役割と考えています。今後も、こうしたセミナー等を通じて、保育士の皆さんが安心して働き続けられる環境づくりを後押しし、保育所等の実情に寄り添った支援に取り組んでまいります。



【講義と演習を交えながら
学びを深める参加者の皆さん】

■80年つないできた「思いやり」を、これからも
～ 赤い羽根共同募金、今年度の運動がスタート！！～

佐賀県共同募金会では、10月1日、「赤い羽根共同募金運動開始式」を開催しました。▶赤い羽根共同募金運動は、戦後間もない昭和22年に、住民による助け合いの運動として始まり、今年で80回目を迎えます。当日は、県民の皆さんをはじめ、民生委員・児童委員、募金ボランティア、協力企業の皆さんなど、多くの方にご参加いただきました。▶式典では、県内の小・中・高校生等から募集した「赤い羽根ポスターデザイン・標語作品」の入賞者を表彰したほか、山田会長が運動開始を宣言し、山口知事より激励いただきました。また募金ボランティアを代表し、佐賀市民生委員児童委員協議会 木村会長から「決意のことば」、㈱サガン・ドリームス　豊田社長からは「応援協力メッセージ」を述べられました。▶今年度の募金目標額は1億4,000万円です。お寄せいただいた募金は市町社協の地域福祉活動や福祉施設、団体の活動など、さまざまな福祉活動に大切に活用させていただきます。▶募金運動は3月31日まで続きます。今年度も赤い羽根共同募金への温かいご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



【山田会長が「思いやりや助け合いの心を次の世代につないでいく」と力強く宣言】

ポスターデザイン・
標語の入賞作品は
こちらをご覧ください ⇒

■佐賀の「福祉」を一緒につくる人を募集します。～令和9年度正規職員募集～



人と地域をつなぎ、佐賀の福祉を考える仕事

令和9年4月採用
正規職員募集

○本エントリー締め切り
令和8年11月6日（金）

◆詳細は本会ホームページをご覧ください。

「誰かの役に立つ仕事がしたい」
「地域に関わる仕事がしたい」
そんな思いを、私たちと一緒に仕事にしてみませんか？

佐賀県社会福祉協議会では、市町社会福祉協議会や社会福祉施設、関係団体などと連携し、地域福祉活動の拠点、ボランティア活動の支援、生活に困りごとを抱える方への支援、災害時の福祉支援など、幅広い事業に取り組んでいます。

私たちの仕事は、人と人、人と地域をつなぎ、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めること。あなたの思いや力を、佐賀の未来に生かしてみませんか？